

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 河西中 学校
校長氏名	東方 美喜夫
作成日	平成 31年 2月 8日

1 教育目標

自主的でたくましく、心豊かな生徒の育成
 (深く考え思いやりのある生徒、進んで学びみがき合う生徒、健康でたくましく体力のある生徒の育成)

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を実践したと思う(生徒・教師90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる(生徒90%) ・「私たちの道徳」「心のとびら」「希望へのかけはし」の活用100% ・いじめの解消率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんを食べた(生徒100%) ・積極的に運動を行うよう計画し、実践した(教師90%) ・「運動部活動指針」に基づき指導・運営する(教師等100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよく伝わった(保護者90%) ・中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた(教師90%)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎・基本の確かな定着 ◎子供主体の授業の推進 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ○仲間づくりの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎小中の接続、河西中学校区における学校間連携の推進 ○地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	<p>○学び合いの授業づくりの推進のため、5回の研究授業や研究協議会を実施し、研究と実践の充実を図ることができた。</p> <p>○学びのルールと粘り強く考える学習習慣の定着を図ろうとした。</p> <p>○ほとんどの授業で「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を意識した授業が展開された。</p> <p>○読書活動の充実に向けて学校図書館ボランティアの協力を得ることができた。</p> <p>○HPや「学校だより」を活用し、家庭学習支援サービス「カルテック」の活用など基礎基本の定着のための環境整備を行った結果、多くの生徒が「カルテック」を利用するようになった。</p>	<p>○道徳科を見据えた研究授業を実施することができた。読み物教材として、「私たちの道徳」「心のとびら」「希望へのかけはし」の活用はできた。</p> <p>○いじめアンケートを年間に3回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めることができた。</p> <p>○人権・同和教育に組織的・計画的に取り組むことができた。</p> <p>○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、外部講師を招聘し生徒と保護者が共に学ぶ機会をもつことができた。</p> <p>○校外学習等で体験学習を取り入れたグループ活動に取り組ませ、絆を深めさせることができた。</p>	<p>○「早寝、早起き、朝ごはん」については「学校だより」を通して推奨することができた。</p> <p>○「運動部活動指導の手引」「和歌山県中学校運動部活動指針」に基づき、効果的・効率的な指導・運営を行うことができた。</p> <p>○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成することができた。</p> <p>○「四肢の状態検査」等の結果から個々の生徒の健康課題を分析し、教科指導や部活動指導に反映させることができた。</p>	<p>○各種便り、HP等を通して積極的に学校の情報を発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開することができた。</p> <p>○木本・松江地区子どもを育てる協議会で校区内の子供の健全育成、地域の教育力向上のための情報交換や研修を行うことができた。</p> <p>○地域の各種団体と連携を図り子供に関わる情報交換を行うことができた。</p> <p>○ブロック特別支援連絡協議会など小中の接続・連携を充実させることができた。</p> <p>○文化祭を地域の公民館活動の発表の場とし活用することができた。</p> <p>○地域・保護者に対して「リサイクルブックフェア」を開催し、学校図書を整備を図ることができた。</p>

<p>取組の成果と課題 評価結果【C】</p>	<p>○県学習到達度調査の結果、県との比較は1年国語(-9)、1年数学(-2.7)、2年国語(-5.6)、2年数学(-12.6)、2年理科(-7.2)であり、全ての教科で大きな課題があることがわかった。 ○主体的・対話的で深い学びの実現にを目指した授業改革について、SVからは「この学校では『学び合いのルール』が確実に浸透している」との評価を得ることができた。生徒の課題としては「わからない」と言える力がついていない生徒が多いことである。そのために、普段から教員が生徒に「わからなかったら訊こうね」と授業の中で伝えることをしていかなければならない。教員の課題としては全ての教科等でこの実践を取り入れた授業展開を目指そうとすることにある。(生徒50%・教師70%) ○「カルテック」は、一部の生徒は活用できているが、全ての生徒とは言い難い状況にある。様々な機会を通して生徒・保護者に周知していく必要がある。 ○読書活動の推進のため、学校図書館ボランティアの協力を得て学校図書を整備を図ることができた。</p>	<p>○学校が楽しいと感じる生徒は90%であった。 ○読み物教材として、「私たちの道徳」「心のとびら」「希望へのかけはし」の活用は60%であった。 道徳科の評価のあり方については研修を深めることができたが、次年度からの道徳科の評価の在り方についての共通理解をより深める必要がある。 ○いじめアンケートを年間に3回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めることができた(90%)が、表面化されないケースがあるものと思われる。 ○人権・同和教育に組織的・計画的に取り組むことができしており、生徒の人権意識も高い。 ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について学ぶ機会をもつことができたが、実生活に反映できるか否かが課題である ○自然体験学習等の体験学習を取り入れることができなかった。</p>	<p>○基本的な生活習慣に関しては全国学力・学習状況調査の結果、県平均と比較するとそれぞれ、早寝(+0.9)・早起き(+7.7)・朝ごはん(+1.5)であった。朝ごはんを食べた生徒は78.9%であるため、100%に近づけるための方策を講じる必要がある。 ○保健体育科の授業や部活動において積極的に運動を行うよう計画・実践ができた(100%)。 ○「県運動部活動指針」に基づいた部活動運営・指導ができてきている(100%)。 ○津波避難訓練や交通安全教室を通して危機回避能力を育成することができたが、それを実生活に反映させることが課題である。 ○養護教諭と連携し、健康診断結果等を授業や部活動の指導に反映させる努力ができてきている。</p>	<p>○HP、「学校だより」、「学年だより」、授業参観、体育大会や文化祭を通して学校の様子がよくわかった保護者は75%であった。 ○特別支援教育については小中の接続・連携を充実させることができた(100%)。今後、英語科での小中の接続・連携の充実が必要である。 ○木本・松江地区子どもを育てる協議会理事会において本校の教育活動の様子をPPTを活用し周知することができた。</p>
<p>改善方法【A】 次年度に向けての</p>	<p>○「学び合いの授業づくり」の研究と実践の継続 ○「朝の読書活動」の実践 ○生徒会と学校図書館ボランティアの連携・協力による学校図書館運営の充実 ○「カルテック」の周知徹底と活用の推奨 ○長期休業中やテスト期間中の放課後の質問教室の実施</p>	<p>○学校で一貫した道徳科の授業計画と実践、適正・公平な学習評価のための共通理解 ○いじめの実態把握を確実にするため、無記名でいじめアンケートを実施 ○情報モラル教室等で学んだことが実生活に反映できているかの調査の実施 ○学年の校外学習として自然体験活動の計画・立案の推進</p>	<p>○生徒主体の「早寝早起き朝ごはん」の取組の工夫 ○「県運動部活動指針」に基づいた部活動運営・指導の徹底 ○避難訓練や安全教室で学んだことを実生活に活かしているかの調査の実施 ○養護教諭から部活動顧問、保体科教員、学級担任等への個々の生徒の「健康」に関する適切なアドバイス</p>	<p>○各種だより、ホームページのより一層の充実 ○英語教育に関する小中の接続のための連携の推進 ○地域安全推進員・PTA役員・生徒会が1つになって実施する毎月月初め1週間の「朝の挨拶運動」の継続 ○木本・松江地区子どもを育てる協議会のさらなる充実</p>

3 その他の課題

<p>○生徒指導に関する課題 ・「学び合いの授業づくり」の研究と実践は「誰もが安心して学べる学校・学級づくり」に資するための取組であるという認識を持ちながら取り組むこと。 ・問題行動には「素早く、機敏にチームで対応」を合い言葉として取り組むこと。 ・「チーム河西」としてSSW、SCと連携・協力をとりながら(アセスメントとケース会議、情報収集と整理)生徒の支援、課題のある家庭への関わりに取り組むこと。 ・問題行動を起こす子を、「困った子」と捉えるのではなく「困っている子」と捉えて関わりを進めること。</p> <p>○情報セキュリティに関する課題 ・情報セキュリティの維持向上、ポリシーの周知徹底、緊急時の対応等について具体的な取組を進めること。</p> <p>○働き方改革に関する課題 ・学校の働き方改革は、教師のためだけでなく、子供たちのためであるという認識をもち勤務時間を意識した取組を進めること。</p>
